

氏名	寺 本 典 弘
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 甲 第 1059 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月 31 日
学位授与の要件	医学研究科 病理系病理学(二) 専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Direct Detection of Epstein-Barr Virus DNA from a Single Reed-Sternberg Cell of Hodgkin's Disease by Polymerase Chain Reaction (PCR法によるHodgkin病・単一Reed-Sternberg細胞よりのEpstein-Barr virus DNAの直接検出)
論文審査委員	教授 岡田 茂 教授 関 周司 教授 木村 郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

我々は病理組織学的に多様な像を取る症例中の特定の細胞を遺伝子学的に検索し、少コピー数のウィルスや遺伝子の変化を解析するために、マイクロマニピュレーターを用いて光顕的に同定された細胞を取りだしPCRにかける方法を開発した。この方法をHodgkin病におけるReed-Sternberg (RS) 細胞のEpstein-Barr virus (EBV) 感染を調べるために応用した。パラフィン包埋の6 μ mの切片をHEなどの通常染色や免疫組織化学法で染色しRS細胞と思われる細胞をマイクロマニピュレーターで取り出した。EBVのBamHIWregionに対するプライマーでPCRをかけ、産物を電気泳動、Southern hybridization法で検出した。パラフィン切片より通常の方法でDNAを抽出しPCRにかけた11例中5例がEBV陽性であったが、この方法ではEBV陽性の全てのRS細胞からEBV DNAを検出した。その他の症例のRS細胞は陰性であった。同方法は感度、特異性共満足すべきものであり、また酸素抗体法を施したパラフィン切片にも用いることが出来た。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は光顕的に固定された細胞を取りだし、PCRにかける方法を開発することによ

り、ホジキン病におけるReed—Sternberg (RS) 細胞のEpstein—Barr virus (EBV) 感染を調べたものである。その結果通常の方法でPCRを行い、EBV陽性であったホジキン病の全例においてRS細胞からEBV DNAを特異的に検出することが出来た。これは単細胞を用いたPCR法開発とその応用について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。